

地域づくりの方向性

市内の地域に着目すると、人口減少や少子高齢化の進行が顕著な地域や若い世代が集まる地域など、それぞれの地域が置かれている状況は様々です。また、東日本大震災の影響や地下鉄東西線の開業などの社会環境の変化により、新たな特性が生まれている地域もあるなど、複雑化・多様化する地域の実情に応じた取り組みを進める必要があります。

このような認識のもと、住みよい地域の実現を目指すため、計画に掲げる「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」の理念を、より生活の場としての地域という視点から捉え、地域づくりを進めていきます。

また、地域のより詳細な特性を踏まえた、「区ごとの地域づくりの方向性」を定めます（85ページ～）。

(1) ふるさとの豊かな自然を守り、安全・安心な地域をつくる

多様な自然と、そこに住む生物などが織り成す豊かな環境は、個性あふれる地域の象徴でもあり、生活の憩いや環境の快適さを支えるかけがえのない市民共有の資産です。それらについて、世代を超えて継承していくため、自然に親しめる機会を充実させるなど、住民一人ひとりに自然を守り、地球に優しい行動への気づきをもたらすような環境づくりを進めていきます。

また、仙台には様々な自然災害などの危機を乗り越えてきた歴史があります。災害による被害のリスクは、地形や住民構成など地域の状況によって異なることから、求められる対応も様々です。人口減少、少子高齢化が進む中であっても、地域防災の担い手を確保し、育成していくとともに、防災訓練や支援が必要な方への対応など、自助・共助・公助の取り組みを通じてコミュニティのつながりを深め、災害に強い地域をつくります。

(2) 支えあい、心豊かに暮らせる地域をつくる

人口減少や少子高齢化の進行、価値観の多様化、情報化の急速な進展などを背景として、市民の生活様式が移り変わる中においても、支えあい、多様性を尊重しながら、誰もが安心して暮らせる地域をつくることが重要です。

地域に必要なインフラの維持管理はもとより、日頃から、防犯や交通安全対策、見守りなど地域を支えている町内会をはじめとして、様々な団体が活動しやすい環境をつくるため、担い手の確保・育成や活動の場づくりに取り組みます。併せて、生活に密着した課題を整理・共有し、多様な主体が地域づくりに参画するための間口を広げることで、地域全体の力を強化していきます。また、関係機関等の専門性を活かしながら、高齢者の心身の健康増進に向けた取り組みや障害のある方の社会参加の促進、社会的孤立の防止に向けた取り組みを進めることで、誰もが安心して、心豊かに暮らせる地域をつくります。

(3) 学びの環境が充実し、子どもたちが健やかに育つ地域をつくる

より良い地域づくりのためにも、豊かな人生の実現のためにも、あらゆる世代の方々が多様な学びに触れることができる環境づくりが重要です。自分の知りたい地域の情報に触れる機会を広げることで、住民の地域づくりへの参画意識と地域への愛着を育む環境をつくりまします。さらに、学都として学生が多く集まる仙台の特性を活かすため、大学等との連携を図り、学生等と住民の交流を促進することで、新たな視点による地域の魅力づくりや課題解決につなげていきます。

また、少子化が進行する中、安心して子どもを産み育てたいと思える環境をつくるためには、地域全体で子育て世代を支えていく機運を高めることが重要です。様々な悩みを抱えても、前向きに子育てに取り組むことができるよう、関係機関等への相談や同世代との交流がしやすい環境をつくるとともに、学校や地域、家庭が連携して、子どもたちが安心して健やかに育つ環境づくりを進めていきます。

(4) 個性あふれる賑わいと交流が生まれる地域をつくる

都心部や海辺、里山といった地理的条件のほか、鉄道沿線を中心とした街区の広がりや、大学等の各種機関、商業施設の立地などによって、地域は様々な特色を持っており、それらを活かしながら、地域の個性を磨きあげていくことが重要です。

住民はもとより、多くの方々が関わりながら、個々の地域の魅力を知り、それを磨き、発信していくための方法をともに考え、具体的な行動につなげることで、個性あふれる賑わいと交流が生み出される地域をつくりまします。